

S H I R O U S A G I

しろうさぎ



vol.37

2014.7.1

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY



CONTENTS

●表紙写真の説明は次ページをご覧ください >>>>

特集

『島根大学病院は 総合的な小児医療を目指します!』

- 「小児医療の『砦』でありたい」 (小児外科・久守 孝司 講師)
- 「[地元で治療ができるという選択肢が増えた]と思えるように」 (心臓血管外科・藤本 欣史 講師)

- *病院探検隊! ~栄養治療室編~
- *病院のまめ知識~熱中症について~
- *私のここだけの話
- *外国人研究者から見た「出雲の不思議」
- *ニュース&トピックス
- *イベント等のお知らせ



小児病棟の様子



～たくさんのイベントを行っています～

クリスマス会



節分の日



小児病棟
花火大会



入院中の卒業生
(中学、高校)の
お祝い会



医学部グラウンドにて



表紙の写真について…

産まれた赤ちゃんは全員「新生児マススクリーニング」という検査を受けます。これは病気を早期発見し、治療することで赤ちゃんを病気から守る社会的な取り組みです。近年、タンデムマス法という新しい検査方法のおかげで、島根県では以前は6種類でしたが、数年前から25種類の病気を検査できるようになりました。

今年度からタンデムマス検査は全国どこでも受けることが出来るようになりましたが、島根大学医学部附属病院の小児科はこの検査の導入について中心的な役割を果たしています。

表紙の写真はこの検査の流れが表されています。赤ちゃんの足から数滴の血液を専用のろ紙に染みこませます。さらに、最後の写真の、本院にある最先端のマススクリーニング専用の機器（タンデムマス）を使用して検査を行います。

本院小児科はこの様な取り組みを通じて、赤ちゃん、ご家族の笑顔を守るため、日々がんばっています。



小児医療の『砦』とりででありたい



小児外科 くもりこうじ 久守孝司 科長

島根大学医学部附属病院は、島根県内で「小児外科」医療を専門的に行っている唯一の医療機関です。小児外科、小児泌尿器科、新生児外科、障害児(者)外科、等、広く診療を行っています。

今回、小児外科の代表である久守孝司先生にインタビューしました。診療する子ども達、また、そのご家族に対しての思いなどを聞きました。

Q 小児外科では、具体的にはどのような病気の患者さんの治療が行われているのですか？

A 基本的には15歳までの小児が対象ですが、病気によっては、成人の方の治療もします。

扱っている病気は、ヒルシュスプルング病、鎖肛など（消化器系）、水腎症、膀胱尿管逆流症など（泌尿器系）が中心ですが、頸部、胸部（心臓を除く）、腹部、外陰部、体表などに発生する、いろいろな種類の病気の診療を行っています。

Q 診療をされる上で心がけていらっしゃることはありますか？

A できるだけ、患者さんと患者さんのご家族に負担がかからないような診療をしたいと考えています。

県内で小児外科を標榜する病院は当院のみですが、診療に来たければ来て、という姿勢ではありません。遠方に住む患者さんのために、県内の関係医療機関に往診に行き、各地域の

患者さんが診療を受けやすい環境を作るよう努めています。

Q 消化器・総合外科のホームページにある先生の自己紹介に、「小児医療の『砦』でありたい」とありました。この言葉にこめられた思いを聞かせてください。

A 私は島根県出身であり、「島根県にいる子供たちは自分達の手で守りたい」という、強い思いでやってきました。

小児科については、かかりつけ医があるご家庭がほとんどかと思いますが、県内の小児科の先生方と広く連携を取りながら、小児外科疾患でお困りの全ての患者さんに、いつでも対応しうる、島根県内における、まさに小児医療の『砦』でありたいと考えています。

（取材：総務課広報担当）

「地元で治療ができる」という選択肢が増えた」と思えるように



ふじもと よしふみ
心臓血管外科 藤本欣史 副科長

昨年4月に小児心臓血管外科の専門医であり、島根医科大学（島根大学医学部の前身）出身の藤本欣史先生が本院に着任し、「山陰初の小児心臓手術専門チーム」を立ち上げました。以前は、島根県、さらには隣県の鳥取県にも先天性心疾患の高度な外科治療が可能な専門チームはありませんでした。

地域にとって非常に重要な役割を担っているこのチームの代表として、藤本先生にどのような思いを持って治療に臨んでいるか、インタビューしました。

Q 小児心臓血管外科では、具体的にはどのような病気の患者さんの治療が行われているのですか？

A 治療の対象として最も多いのは、「生まれつき心臓に病気を持っている、先天性心疾患」の患者さんです。

また、発育の過程で、何らかの理由により心臓や血管に手術治療を要する事態になった患者さんの治療も行います。

先天性心疾患を抱えたまま成人となった患者さん、もしくは治療はしたものの成人期になって再び問題が生じて発症した患者さんについても治療対象となります（成人先天性心疾患）。

Q 治療をされる上で心がけていらっしゃることはありますか？

A 家族と一緒に生活できるようにしてあげたい、家に帰って家族と過ごせるようにしてあげたいという思いを常に持って、治療に臨んでいます。当たり前のことを当たり前でできる体にしてあげたいと思っています。

Q 地域の方々、患者さんへのメッセージをお願いいたします。

A 昨年4月に小児心臓血管外科チームを立ち上げました。

これまでは、出産後に「お子さんは、生まれつきの心臓の病気を持っています」と伝えられた場合、島根県内では手術が不可能で、県外で治療を受けるしかなく、「治療の選択肢」がありませんでした。その結果、「生まれてきたこどもを助ける」ために、ご家族は大きな負担を強いられていました。

本院の小児心臓血管外科チームの存在によって、ご家族にとって、「地元で治療ができる」という選択肢が増えた」と思えるようになっていただければ嬉しいです。

（取材：総務課広報担当）

今回も「病院探検隊!」を開催しました。今回は10名の方に、栄養治療室を探検していただきました。今回の探検隊の目玉は、「病院食の試食」。厨房の見学を通して、普段どのように病院食が調理されているのか見ていただいた後、実際に参加者の皆さんに病院食を食べていただき、ご意見いただきました。

当日はたくさんの質疑応答が行われ、参加者のみなさんの食事に対する興味関心の高さを強く感じた今回の探検隊でした。案内役は、平井 順子^{ひらい じゅんこ}栄養治療室長です。

1 栄養治療室について説明



まずは平井室長から、栄養治療室はどのような業務を行っているのかの説明がありました。みなさん大変熱心に聞いていただきました。



2 厨房見学(1)



続いて厨房を見学。普段、どのように病院食が調理されているのか、参加者のみなさんに見学していただきました。

オール電化になっていて、さらには蒸したり焼いたりなんでもできるオープンがあるなど、最近の進化した調理室を見ることができてよかったです。

参加者

4 病院食 試食



最後に、今回参加していただいた方々に病院食を試食していただきました。味がしっかりしていておいしい等、感想をいただきました。

参加者

病気の療養のため、食事がいかに大切かとてもよく分かりました。

以前は病院食は見た目も悪く、まずいという印象でしたが、最近は改良され、とても食欲がわいてくるような美しい食事を提供していただきました。

参加者

3 厨房見学(2)



ちょうど病棟の患者さんへの食事の盛り付けの準備中でした。たくさんの茶碗がありますね。

まるで陶器や漆塗りのような美しい食器でびっくりしました。

参加者

病気の **まめ** 知識

熱 中症に注意しましょう

救命救急センター長
仁科雅良



「熱中症」とは暑さ・高温の環境による身体の障害の総称です。暑さのため臓器障害をきたすと生命にも危険がおよびます。とくに幼い子供や65歳以上の方は、体温調節機能が低下するので注意が必要です。屋外だけでなく家の中でおこることもあります。熱中症は予防が大切です。暑い時期には無理な運動を避ける、外出時には帽子をかぶる、水分と塩分をこまめにとる、エアコンなどを適切に使用する、などがあります。

熱中症の症状には、めまい・たちくらみ・筋肉痛・こむらがり・吐き気・頭痛などがあります。このようなときは、涼しい場所に移して濡れタオルなどで身体を冷やす、水分と塩分を与える、などの処置をしましょう。しかし、さらに重症になると、意識がなくなる、話し方がおかしい、けいれんする、などの症状がでます。このような症状がみられたら無理をせず、すぐに救急車を呼びましょう。



私のここだけの話

内分泌代謝内科 助教
守田 美和

私はよく転びます。今日は私の転倒ベスト3を発表します。

第3位：中学生の時、学校に遅刻しそうで線路を疾走し石の上で転倒、痛さのあまり走れなくなり、結局車で送ってもらい遅刻回避。この傷は私の右膝にまだ残っています。

第2位：昨年、家の中でココ(犬)につまずき転倒し唇を大きく切りました。腫れた唇を見て看護師さんは爆笑し、私もつられて笑いが止まらず、傷が開きそうでした。部屋の中の転倒は意外に多いので注意が必要です。

第1位：ある雨の日の夜、実家に帰省し車を降りて玄関にダッシュしたところ、入り口になんとロープが張ってあり(朝顔ネットの為)、当然引っ掛かり、バランスを崩した先に大量の植木。顔面強打し鼻を切りました。もう少し鼻が高かったら折れていたかもしれません。ちなみに、平地で転倒しただけで骨折したら骨粗しょう症疑いですよ。部屋の中、走った時、暗いところは気を付けましょう、と自分に言い聞かせていますが、転ぶんです。

NEWS &
ニュース&トピックス
TOPICS

新たに救急車を導入しました。

災害対策の一環として2台目の救急車を導入し、4月10日(木)に納車式を行いました。この救急車は、救命救急体制の充実を図るために導入されたものであり、今後は、中国・四国地区の10大学病院への災害医療支援や、島根原子力発電所の被ばく事故等の際には、初期診療および患者搬送等を行います。また、日常的な入院患者さんの移送等、患者さんの利便性の向上を図るための一翼も担っています。



外国人研究者から見た「出雲の不思議」

外国の方から見た「出雲の不思議」をお聞きしました。今回は、小児治療に関する特集に関連して、小児科学講座に4月まで在籍されていた外国人研究者・ヘノックさんに答えていただきました。

私が出雲に滞在している中で最も不思議に感じたことは、外を歩いている人がとても少ないということです。これは、出雲がとても田舎で人が少ないと言っているのではありません。私の国のエチオピアと違って、ほとんどの人が自分の車を持っているから、外を歩いている人がとても少ないのだと私は最近気づきました。エチオピアでは車を持っている人のほうが珍しいので、みんな自分の足で歩いて移動するのです。



エチオピア出身
ヘノックさん
(小児科)

★だからエチオピアはマラソンが強いんですね！ 私たちも、もっと歩かないと！（編集者）

イベントのお知らせ

▶ 島大病院「ちょっと気になる健康講座」を開催中！

島大病院には、専門知識を備えた、医師をはじめとする様々な職種の職員が医療・医事業務に携わっています。本院に来院される患者さんや一般市民の方への少しばかりのサービス提供事業として、健康や医療に関するミニ講座を定期的に開催しています。実施内容は下記のとおりです。



対象 患者さんほか一般市民 場所 外来1階 玄関待合ホール 時間 11:00～11:30

回数	月日	担当	講師	テーマ
第34回	7月10日(木)	心臓血管外科	金築一摩	動脈瘤について
第35回	7月17日(木)	脳神経外科	吉金 努	脳卒中について
第36回	7月24日(木)	輸血部	輸血部女子	いつか役立つ輸血のはなし
第37回	7月29日(火)	栄養サポートセンター	矢野彰三	ドクトル矢野の癒しの豆知識
第38回	8月 7日(木)	臨床検査科	長井 篤	失神の原因と検査について
第39回	8月14日(木)	呼吸器外科	岸本晃司	胸部低侵襲手術について
第40回	8月22日(金)	総合診療科	木島庸貴	よりよい生活習慣について
第41回	8月28日(木)	放射線治療科	玉置幸久	放射線治療について
第42回	9月 4日(木)	乳腺・内分泌外科	百留美樹	ふれない乳がんを見つけよう
第43回	9月11日(木)	がん患者・家族サポートセンター	榎原貴子	がん相談支援センターのご紹介
第44回	9月18日(木)	消化器外科	林 彦多	膵がんの早期発見のために
第45回	9月24日(水)	病理診断科	丸山理留敬	病理診断とは？

▶ 病院ボランティアコンサート 開催予定

7月18日(金)19時より

島根大学軽音楽部と
その他有志



8月22日(金)19時より

出雲邦舞会

開催場所：玄関待合ホール

9月19日(金)19時より

島根大学邦楽部

▶ いきいき健康講座「まめなかくらぶ」 放映予定(出雲ケーブルビジョン)

7月放送 検査部技師長 三島 清司
「検査で守るあなたの健康」

8月放送 総合医療学講座 助教 木島 庸貴
「家庭医療について」

9月放送 臨床研究センター副センター長、
治験管理部門長 直良 浩司
「治験」についてご存知ですか？」

▶ 誰でも参加出来る糖尿病教室

参加費無料！
予約不要です☆

時間：15時～16時(受付14:30～)

場所：外来・中央診療棟3階「だんだん」(病院正面玄関エレベーターから3階へ)

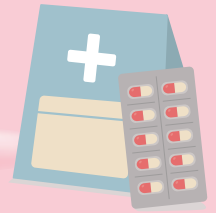
7月 7日(月)	●おいしい減塩してみませんか？ 矢田里沙子 管理栄養士
	●運動で健康寿命を延ばしましょう 伊藤郁子 理学療法士

9月 1日(月)	●眼科医が語る「眼と糖尿病の深～い関係」 ～糖尿病から眼を守ろう～ 高井保幸 眼科医師
	●体験！ 見えにくいってどんな感じ？ 板倉弘実 看護師

主催：島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
お問い合わせ先：島根大学医学部附属病院 内分泌代謝内科 守田 電話：0853-20-2183



看護師募集!



入職時から研修スケジュールに基づいて
新人看護師の成長を支援します。

研修スケジュール

4月

- 新採用者入職時研修



ナースマンも
がんばって
います

採血研修の様子

5月

- チーム医療研修
- リフレッシュ研修

点滴準備の研修の様子

7月

- フィジカル
アセスメント研修
- 個人プログラム

人工の血液を
流しています



9~11月

- 多重課題研修
- 宿泊研修
- 院内ローテーション研修

12月

- “太鼓判”研修

これで、
あなたも
大丈夫!!

2~3月

- 成長体験発表会
- 静脈注射研修



看護教育支援室・
看護師長の岩谷です。
(写真左側が新人看護職員で、
右側が私です。)

4月に元気一杯のたくさんの新人看護職員を迎えました。研修終了後それぞれの部署に配属され奮闘している姿を見ると、「頑張ってる!」と声をかけてしまいます。看護教育支援室では、「安全で安心な看護」を身につけ看護の基盤作りができるように、入職時から成長をサポートします。

インターンシップ・病院見学会へ来てみてね!

編集

今回は小児医療をテーマに記事を作成しました。取材をして、小児治療に対する先生の熱い想いを聞くことができました。取材後は、心がほっこりしました。

後記

気温が少しずつ上昇してきました。暑い、暑い夏はすぐ目の前まで来ています。今回の記事にもありますが、熱中症にはみなさん、どうぞお気をつけください。次号の発刊予定は10月です。

しろうさぎ

についてのお問い合わせ先

医学部総務課 企画調査係 広報担当

TEL : 0853-20-2018

E-mail : mga-kikaku@office.shimane-u.ac.jp